

平成29年度第1回まち・ひと・しごと創生懇話会 議事録

(開催要領)

1 開催日時 平成29年7月13日(木) 13時30分から16時30分

2 場 所 近江八幡市役所 西別館2階 第6会議室

3 出席委員等

<委員(敬称略・順不同)>

秋村 田津夫 (近江八幡商工会議所 会頭)

遠藤 良則 (近江八幡金融協議会/滋賀銀行八幡支店 支店長)

城念 久子 (近江八幡市安寧のまちづくりプロデュース委員会 委員
/オレガノ 副代表)

白須 正 (龍谷大学 政策学部 教授)

土井 勉 (大阪大学COデザインセンター 特任教授)

吉田 正樹 (近江八幡市副市長)

<事業担当課・事務局>

佐竹 章吾 (文化観光課 課長)

園田 政生 (文化観光課 課長)

永田 修 (文化観光課 課長補佐)

木村 辰之 (健康推進課 課長)

津田 幸子 (健康推進課 参事)

藤田 一吉 (商工労政課 課長)

間宮 大樹 (商工労政課 主事)

沖 茂樹 (農業振興課 課長)

奈良 俊哉 (生涯学習課 参事)

太田 明文 (政策推進課 課長)

川端 啓司 (政策推進課 課長補佐)

栄畑 朝夕美 (政策推進課 課長補佐)

森津 豊 (政策推進課 副主幹)

橘 直樹 (政策推進課 主事)

<議事次第>

1 開会

2 事業説明・検討

3 意見交換

4 閉会

【配付資料】

- 資料 1 : 委員名簿
- 資料 2 : 平成 29 年度近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会 対象事業一覧
- 資料 3 : 事業シート
- 資料 4 : 補足資料一覧
- 資料 5 : 補足資料

<内容>

1. 開会

○事務局

(座長挨拶)

○座長

本日は皆さまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨年度、3月23日に第1回の近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会を開催いたしました。この時は、平成27年度と平成28年度の取組についてご報告いただき、委員の皆さま方から非常に活発なご意見、ご指摘を頂きました。それを受けて、近江八幡市が平成29年度の事業に取り組み始め、これからまさに進めていくところです。そこで本日は、今年度の総合戦略に基づく各事業について、それぞれの担当部署から報告をいただき、委員の皆さまからご意見を頂きます。限られた時間ではございますが、活発な議論をお願いしまして、事業を充実したものとし、市の発展と市民のためになるようにしていけたらと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(新任委員紹介)

○事務局

それでは続きまして、新たにご就任をいただきました委員のご紹介をいたします。昨年度委員をお願いしておりました、滋賀銀行八幡支店の首藤支店長がご異動されましたことに伴い、後任の遠藤支店長に委員にご就任いただきます。

委員の任期は、設置要綱第4条第2項の規定により、前任者の残任期間とし、平成31年3月までとなっております。

(懇話会開催の趣旨、進行方法)

○事務局

当懇話会は、近江八幡市総合戦略に関する事業の評価・検証の場として、昨年度第1回目を開催させていただいたところです。その中で、委員の皆さまより事後の評価・検証だけではなく、事業を実施するにあたっての事前の意見交換が必要であるとのご意見を賜りましたことから、事業を進めるにあたってのご助言を賜る場と

して、本日の懇話会を開催する次第です。

本日は各担当課より事業内容の説明を行い、その後、質疑応答とさせていただきます。尚、説明時間を5分、質疑応答時間を10分、概ね1事業あたり15分を目処として進行を賜りたく、よろしくお願いいたします。

(配布資料確認)

○事務局

※以降の議事は、設置要綱第5条第2項の規定により、座長により進行。

2. 事業説明・検討

(1) 安寧のまちづくり（CCRC）推進事業

○政策推進課

事業シートNo.1、及び補足資料「平成29年度 安寧のまちづくり事業（イメージ）」に基づき説明。

○委員

- 当事業は近江八幡市が総力を挙げて取り組んでいるものであり、他の11の事業とも密接に係わるものである。
- 委託料の内訳を説明いただきたい。
- 一昨年度から積極的にプロモーションを展開しているが、そのプロモーション素材はストック化することにより、一度だけ使うのではなく、今後いつでも使えるようにしておくが良い。
- 最も重要なパートナー事業者の選定にあたり、募集要綱の作成は重要である。CCRC事業だけに限定するのではなく、近江八幡市のまちづくりに対してどのように寄与できるのかを正確に確認し、アイデアを出してもらうべきである。

○委員

- 田園回帰と話題に上ることも多くなってきたが、田園回帰とはただの引越しではなく移住である。移住することに対して、地域がまとめて応援するという、地域作りの発想が無いと、人は移住しに来ない。
- 安寧のまちづくりにしても、外部アドバイザーからの意見をもらって進めているところも多いが、地域・地元がどうしたいという考えがないとうまくいかない。
- 実績では移住希望者が9名おられるとのことであるが、樂觀視してはいけない。全国には150万人の移住に興味を持つ人達がいる、近江八幡市として

しっかりと発信していかないといけない。

○委員

- 地方創生が全国的にうまくいかない理由を考えた時に、社会情勢は刻々と変わっているにも関わらず、GDPが上がる、人口が増えるといった前提条件を変えないままであり、ギャップが生じていることが原因だと感じる。
- CCRCを進めるにあたり、近江八幡市が人口減を前提にまちづくりを考えることは妥当である。むしろ、そのような考えのまちに人は集まるのではないかとも思う。
- 片や、外から訪れた方の感想を聞くと、近江八幡市は何か特別な手立てを講じなくても、そう心配はないという思いもある。無理をするのではなく、すでに近江八幡市が持っているものに目を向けて、市民がもっと真剣にまちづくりに参画する責任感を持つことが大切である。
- 市民が自ら動けば、外から何か持ってくる、人を連れてくる必要はなく、国内の総人口が減少する中で陣取り合戦をする必要もなくなる。
- 一度、そういった前提で、どのようなまちづくりができるのかを考えると、違った角度からの表現や提案ができるのではないか。

○政策推進課

- 委託料の内訳について、安寧のまちづくり推進協議会の運営・支援業務に対して約6百万円、共創プラットフォーム、提案募集事業（事業アイデアコンペ等）に関する支援・企画業務に約20百万円、残りをプロモーション事業などに当て、総額32百万円の予算内訳としている。
- プロモーションツールのセット化について、すぐに取り出せるようにとご指摘をいただいた。先ほど紹介できていなかったが、原課でツールを作成しており、様々なイベントなどでアピールしている。
- 今年度の最重要事項であるパートナー事業者の選定に関しては、要綱の策定自体が事業の成否にも関わってくると考えている。策定にあたっては、インターネット上のプラットフォームや事業者からの提案を受けて、それを募集要項に当て込んでいくと共に、地域住民を交えてのワークショップにて意見を集約し、計画に反映をさせていく。近江八幡市としての受入態勢や、市のまちづくりのイメージを募集要項のなかで謳っていく必要があると考えている。

○座長

- パートナー事業者の選定について、まずは西の湖周辺の開発に関するパートナーを選定するという認識でよろしいか。

○政策推進課

- その通り。基本計画では5つの地域を想定しており、どこから取り掛かっていくべきなのかを検討しているが、まずは西の湖周辺を最初に整備すべく、提案募集を求めるよう考えている。

○委員

- パートナー事業者が重要なキーになるとのことであるが、あまり規模の大きな事業者であると、金太郎飴のような特徴のない提案になってしまうようにも思う。近江八幡市として、パートナー事業者のイメージは持っているか。

○政策推進課

- その点が課題であり、これから考えていきたい。

○委員

- パートナー事業者候補はあまり多くないと思う。なぜかというところ、CCRCを進めるにあたっての一番の問題であるが、ある一定のスケールが必要となるからである。CCRCで求められることは、健康な時期からのケアを含めた、全体の事業がうまくいくことであり、それには相当の大きさのエリア規模が必要になる。
- 事業として今回想定されているのは、非常に小さなものであり、全てをカバーするというものではなく、ある一定の地域をどうするか考え、地域の方達で応募されるものなので、それに合致するように相談して進められると良い。

○委員

- 約300万円もの委託料を支払うのであれば、多数の事業者が興味を示すと思う。

○政策推進課

- 今年度予算の約300万円については推進協議会の運営支援や、プラットフォームの管理運営に係る委託料等であり、パートナー事業者への委託料ではない。

○座長

- アイデアコンペ実施に係る200万円も同様にパートナー事業者向けの委託料ではないということか。

○政策推進課

- その通り、事業の実施に係る委託料となる。市単独で事業を進めるのは困難

であり、運営についてコンサルタント等に支援をいただくための経費である。

○委員

- 他の委員の意見とも重複するが、地域がどのように受け入れていくかといった意識改革を行わないと、どんなに素晴らしい計画であっても空回りしてしまう。ワークショップを開催するなど、地域住民の意識の掘り起こし、住民の想いを吸い取る連携ができると良い。

○委員

- 地域の方々の意識が重要だと、他の委員からも意見が出た。東京や大阪でセールスプロモーションを行うことも大事であるが、ワークショップに集められた地元の方が、上京した息子を呼び戻すにはどうすればよいか、あるいは親と一緒に住むためにはどうすればいいかなど、ハードルを取り除くために話し合うようなことも検討してはどうか。
- 他の事業にも活用できるので、せっかく市民の声を聞くのであれば、出て行った人達を戻す観点からも考え、政策を進められたい。

(2) 未来づくりキャンパス事業

○政策推進課

事業シートNo.2、及び補足資料「近江八幡未来づくりキャンパス事業概要（H28年度）」に基づき説明。

○委員

- こういった会は年度当初に行うのがいいなど、改めて感じた。昨年度はテーマをチーム毎に考えられたと思うが、今年度はこちらからテーマを提供し、検討してもらってはどうか。
- テーマとしては、例えば先ほど委員からも提言のあった、「人口減少しても魅力ある近江八幡を作るためにはどうすればよいか考える」といったことや、「CCRCを推進するにあたり、地域としてどのように受け入れていけばよいか」なども考えられる。市として抱える課題を参加者に共有してもらい、市役所内の議論とは違った観点で議論してもらうことで、新しい気付きや発見が生まれるのではないかな。
- また、参加者自身が啓蒙し、自ら活動し、ビジネスに発展するなどすれば、非常に底の厚い事業に発展できる。

○政策推進課

- 今年度については、推進会議の中でもテーマを特定した方が良いとの意見を

頂き、テーマを特定したうえで進めている。また、提示したテーマ以外にも取り組みたいものがあるれば、それについても議論することとしている。

○委員

- 実態として、何とか人数は集まるが、何かやってやろうという気概のある参加者は皆無である。本当にその仕事が好きでやりたいという方には、いつでも皆がサポートすると言っている。金融機関も新しく創業する方を最後まで責任持ってサポートしますと、そこまで言ってくれており、ひと、もの、かねで言うと、「かね」はそういったサポートがある。
- 最終的には「ひと」の問題であるが、ここ数年間、そこまで一生懸命取り組む人を見たことが無い。この事業についても20～30人程度の参加者が来られているが、何とかならないものだろうか。

○委員

- 大切なのは公益性である。
- もっとクリエイティブな人たちを集めないと、来年も再来年も同じことになってしまう。今年度は近江八幡市と他所の特徴、優位性を十分勉強し、内なる創発を行ってもらう必要がある。近江八幡市の優位性を分かっていない方が、ただ木を切りました、炭をおこしましたでは意味が無い。理由まで議論しないといけない。
- 名前は良い、行政が話すと綺麗に聴こえるが、中身は時代に合っていない。内なる創発を行う環境が近江八幡市にはあるので、これを表に出していくべきである。

○委員

- 近江八幡市には商店街が17あるということであるが、一体どこにあるのか。最近では、近江八幡市に来られる方々がお昼ご飯を食べる場所すら無い。家族で訪れようという需要はあるにもかかわらず、若い人達が外に出てしまっていることで、それに対応するエネルギーすら無い深刻な状況である。

○座長

- そうすると、やはり外からもいい人材に来てもらわないと、ということになる。

○政策推進課

- 大学への声掛け等、広く募集を行うと共に、委員からの推薦をお願いしたい。

○座長

- 現状は、沢山いる中から選ぶ訳ではないということか。

○政策推進課

- 今年度の塾生の募集についてはこれからである。

○委員

- 先ほどもあったように、カッコいいことはいくらでも言えるが、本当に困っていることが何なのかを認識して問題解決する必要がある。何に困っているのかを議論できる状況にあるのか。

○委員

- 私は、本当に困っていることを含めて、やりたいことがあるのであれば、その体制は用意するので、本当にやる気があるのかということ塾生に聞きたい。
- 事業主になるということに慣れていない人が多い。大変なのだろうなという思いが先行してしまっている。

○委員

- 募集の対象を、興味を持っている人ではなく、既に他の事業をされている方だけに絞るといふ考えはどうか。その方が現実的かもしれない。

○委員

- 事業を通じて、地域プロデューサーを作っていかなければならない。
- 近江八幡市にも、身銭を切って活動されている方がおられるが、そういった方々はこういった場には出てこられない。そういった方々に出ていただいて、思想を伝授してもらわないといけない。種を蒔いてもらう仕組みづくりが必要であり、重点的にお願いに行かなければならない。

(3) 空き町家リノベーション事業

○商工労政課

事業シートNo.3に基づき説明。

○座長

- 事業内容にも記載されているとおり、今年度も町家の整備を行うということだが、実際にそこで何か事業を行うのか。

○商工労政課

- 八幡商業高校の学生に店舗実習の場として提供する他、来月からは近江八幡商工会議所にて「町家でチャレンジショップ」という事業を予定しており、創業希望者が集まる予定である。
- また、「まちなかゼミ」という、大学生や市民向けのミニ講座を月1回程度開催しており、意見交換や旧吉田邸の使い方を含めた議論をしてもらっている。先月は観光に関するセミナーを実施しており、活用を図っているところである。

○委員

- 空き町家事業の対象は旧吉田邸だけなのか。

○商工労政課

- その通り。

○委員

- 元々の発想としては、大学生に自由に使ってもらえる施設として整備を行った。当初は整備をするのか、解体するのかといった議論もあったが、学生達にもっと利用してもらおうと思い、整備した。
- 学生だけでなく、企業にも利用してもらえればと思っている。毎日、誰かしらがわいわいと議論するようになれば良い。自由に使ってもらえる場として発信していかなければならない。

○委員

- 空き町家のことを調べてみたが、近江八幡市の空き町家が10～20軒集まれば、活用方法はいくらでもある。たかが1軒では、誰も興味を持たない。数軒集まって綺麗に整備すれば、借りて何かしたいという人は沢山いるはずである。
- ところが、話に聞くと所有者が貸さないということである。所有者が貸さないのは自由であるが、近江八幡市の雰囲気が悪くなっていることも事実である。所有者の方々にはお集まりいただき、地元が衰退してしまうことを訴え、理解を得るべきである。

○委員

- 事業タイトルが「空き町家リノベーション事業」ということで、てっきり沢山ある空き町家に対して、成功した旧吉田邸の改修事例を水平展開していく、空き町家問題を解決していくような取組かと思っていたが、そうではなく、交流拠点を作るという取組であると理解した。

- 本来であれば、事業タイトルは「空き町家を利用して、交流拠点を整備しチャレンジ事業を展開していく」という、趣旨が判るようにした方が良かったのではないか。
- 空き町家の利活用については、家主さん、地主さんに集まっていただいて、今後どのようにしていくかというプロジェクトを別に立ち上げるべきではないか。

○委員

- 旧吉田邸については、ずいぶん前から空き家となっていて、このように活用されること自体は意義のあることだと思う。
- C C R Cの情報発信拠点や、チャレンジショップでの利用については、いつ頃から可能になる予定なのか。

○商工労政課

- 1階部分は改修が完了しており、既に一部実施はしている。ただ、内装の整備が全て完了していないこともあり、すぐにやり方を決めるのではなく、試験的な運用をしながら決めていき、来年度以降には民間の希望者も利用できるよう整備していきたい。

○委員

- 建物としては非常に魅力のあるものなので、有効に活用いただきたい。

○座長

- 空き家、特に町家であるということで、本件の拠点整備については非常に意義のあることである。うまく活用を進めることで広がりが見込める。システムの構築や、所有者の理解がポイントであると思う。

(4) 八幡商人育成事業

○商工労政課

事業シートNo.4、及び補足資料「チラシ(第1回近江八幡地域クラウド交流会)」に基づき説明。

○委員

- 様々な団体が、様々な地域で同じようなことを行っているのを見て、幅広にやればやるほど、事業者の育成はできないと感じている。
- 近江八幡の資源や特長に絞って事業を行うのも良いのかなと思う。それがアグリであるのか、町家であるのか、何なのかは考える必要があるが、創業者

育成には良いのではないか。そういった目線もある。

○座長

- 前回の3月の懇話会においてもそうであったが、町家事業、CCRC事業、未来づくりキャンパス事業と、創業、起業を目標とする事業が他にもいくつか存在しており、これらを連結させることで、より効果的に展開できるのではないか。

○商工労政課

- 近江八幡市ならではの取組としてどうするのかについて検討をしている。原課としては、まずは創業の仕組作りが必要なのではないかと考え、今年度は優先して取り組む。地方創生交付金事業に関しては、5年間の事業スパンがあるので、残り3年間で事業の独自性に焦点を当て、業種や社会起業家にテーマを絞るなど、関係機関とも協議を図りながら、来年度以降の事業に反映したい。

○委員

- 八幡商人たる近江八幡市内の社長達に意見を伺うと、いくらやれやれと言っても、言うだけではだめだと言っておられる。地域活性化プログラムを作成しなければならないと申し上げているが、そのような取組を行わないと商業活性化には繋がらない。

○委員

- 「未来づくりキャンパス」と似ている感じがする。取組方法の違いは説明できるのかもしれないが、市民から見てあまり違いが分からないということもあり得るので、纏めてしまう、若しくは共同で進めて効果を高めるようなことをしないと、人員が限られている中では、参加者に手厚く対応できないのではないか。
- お互いに話をして、テーマを共有するか、若しくは参加層の違いを明確に説明することで、人の取り合いを避けるなどしないと駄目。

(5) 先進的農業者づくり塾事業

○農業推進課

事業シートNo.5、及び補足資料「スケジュール」「事業企画(案)」に基づき説明。

○委員

- 幸せな田舎を作るということは、みんなの未来を語ることであり、農業者の方々も動き出されている。
- 園芸コースについてはJAに任せる方が良いと思う。
- 元々農業者でなかった方々が、新たな農業のジャンルを作り出していくのだと思う。今でもパン作りやケーキ作りなどで活躍されている。

○委員

- 作り手をどう育てるかということは非常に重要であるが、出口戦略として作ったものが社会にどう供給されていくかということも重要であり、加工や生産にフィードバックされることで価値の高いものが生まれてくる。
- 農業や食を通じた産業化により、販売、またはそれをデザインにどう活かしていくかを考えても良いのではないか。
- 創業者と農業者が一緒になって商品の開発、生産を考えていけば、視野が広くなり、JAが行っている事業とは異なる、独自性が見えてくるのではないだろうか。今までミスマッチだと思っていたものを、人を育てながら、うまくマッチングさせることができると良い。

○委員

- KPIにある農家数1,356戸というのは現在の実数か。

○農業振興課

- その通り。

○委員

- 近江八幡市は昔の集落形態を残している珍しいケースである。昔はいたるところ農家ばかりであったが、今本当にこれだけの農家が存在しているのだろうか。実態を正確に把握する必要があると思う。営農組合ができて以降、実態はもう農業を営んでいないという方が沢山おられる。農家として分類されているかもしれないが、実態はそうではないケースが多いと感じる。
- 兼業農家は農業以外の所得があるからいいが、農業だけで生計を立てることは難しい。実態として、米の価格が下落しても問題視しない農家の方が多いが、これは全体の所得に占める農業所得がそれ程大きくないからである。
- 分類については、国の政策の問題もあるかもしれないが、実態として近江八幡市に1,356戸の農家数があるのかは、疑問視するべきである。

○委員

- 農業専業で生計を立てておられる認定農家数は約150戸である。

○委員

- そういった方々が増えると良い。

○委員

- ただ、専業農家だけが増え、兼業農家が減ることで排水経路や道の整備など、地域コミュニティの現状が悪くなるのではないだろうかということを危惧している。田んぼに関心を持つ人が少なくなったことで、掃除もしないなど、地域の意識が薄れている。
- 小規模な農業地域は、独自産業を打ち出して、次世代を担う人達を増やす必要がある。「作業員」を増やしても生計は立てられない。従来型の農業者ではない、グリーンカラーを育てる塾とした方が良い。

○委員

- 近江八幡市は尖った考えの若手農業事業者が、他府県と比較しても非常に多い。その方々といい関係を構築し、一緒にやっていると良いのではないか。その世代の方々は、かなり刺激的な動きをされており、色んな情報や行政との繋がりも求めておられるので、そういった目線を取り入れてもらいたい。

○委員

- 農業者づくり事業計画（案）において、昨年度の考察として、最終到達点を「儲かる」としているが、言葉にするとインパクトがあり過ぎる。消費者としては、もっと独自性を打ち出して、「安全」や「八幡らしさ」をアピールすれば、多少値段が高くても、良いものは買っていただけるはずである。そういった部分をもっと言葉で表していくべきである。

(6) 近江八幡ブルーツーリズムモデルツアー試行業務

(7) インバウンド配信動画プロモーション事業

(8) 近江八幡地域産品販売拡大計画策定業務

○文化観光課

事業シートNo.6、7、8、及び補足資料「近江八幡市ブルーツーリズム資源活用推進プログラム」に基づき説明。

○委員

- 3事業共にKPIが「観光入込客数」と、人数カウントになっているが、近江八幡市にとってもっと大切なのは、来てもらった観光客にどれだけ滞在してもらえるかということである。
- 滞在時間や滞在時間を延ばす為に、何をすればいいかを考えることと併せて、

「近江八幡地域産品販売拡大計画策定業務」において、せっかく商品販売を行うのであるから、消費単価に関しても調査すべきである。

- どの程度消費されているのかを調査することで、様々な効果の検証にも役立つはずなので、そういったものをKPIに加えても良いのではないか。人数だけではなく、観光の中身によっても、地域に対する寄与の仕方が変わってくるので、それを考慮に入れた事業としてもらいたい。

○委員

- 観光で来てもらう限りは、どれだけ消費してもらえかが非常に重要である。
- 調査によると、同じ京都府でも、京都市以外に観光に行かれる方は全体の1割である。近江八幡市は京都市へのアクセスが良いので、長期滞在いただくことも可能ではないだろうか。
- 中国では、現地の大学生やOBが、現地の古い民家を改造して民泊を営んでいる。そういった方々は本当にやる気があることがすぐに見て取れる。そういった方々に近江八幡市に来てもらい、同じエネルギーで、これまでの感覚で事業をしてもらえば、相当人気が出ると思う。また、中国の一定以上の所得水準の方々を呼んでもらうことができれば、非常に有効なのではないだろうか。
- 中国には相当数の富裕層が存在する。そういった方々が来られても、すぐに帰ってしまうのでは意味が無い。実情の分かる中国現地の方に、近江八幡市で事業を行ってもらうのは悪い考えではないと思う。
- 「かね」が全てではないが、観光地である以上はそれをベースに考えないと、廃れてしまうのは目に見えている。

○委員

- RESAS等のビッグデータを使った分析があまり無いように感じる。
- ラ・コリーナのように、観光にどのように付加価値を付けるかを考えなくてはならない。近江八幡市が他とは違うというところを、内発的發展で何かしていけないといけない。その延長線上に色々な仕組が出てくると思う。そうすることで、近江八幡市に興味を持つ人が増えていく、それが「スリッピー観光」である。

○委員

- モデルツアーについては、素晴らしい試みである。地元企業でも、社員旅行を見直しており、社員旅行に力を入れることと併せて、地元還元しようとしている。ただ、プラン作りに困ることも多く、そういった企業に対してプランを提示することができると、利用者増や消費拡大にも繋がるだろう。
- ブラックバスなどのトローリングと旅行を組み合わせることができないかと

の問い合わせを受けることがよくあるが、そういったことも考えてみても良いのではないか。

○座長

- 量も大切であるが、やはり質も考えなくてはならない。どのような層に、どのように来てもらって、良さを知ってもらえたかということ把握しなければならない。せっかく来てもらうからには、近江八幡市内で消費してもらうことが大切である。
- 先ほどお話があったように、京都市とそれ以外の府内市町村では観光客の消費単価が全く違う。主に宿泊単価であり、外国人観光客の与える影響が大きい。
- 来てもらうことは大切であるが、どのような層に来てもらいたいのか、何をPRできるのかを考えておく必要がある。
- 近江八幡市は住むには良いまちかもしれないが、就労に関して言えば製造業が少ないので、観光産業に力を入れ、魅力を知ってもらうことは意義のあることである。

(9) 沖島担い手交流プログラム

○生涯学習課

事業シートNo.9、及び補足資料「しおり（第1回災害応援に関する協定都市と中学生：次代の担い手交流会 IN 沖島）」に基づき説明。

○委員

- 事業内容は素晴らしいと思うが、KPIが事業内容に即していないように思う。KPIに設定するのであれば、「担い手事業参加生徒数」などとする方が良い。
- 交流事業として進め、担い手を育成するのであれば、もっと他のプログラムも追加することが望ましい。

(10) 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

○健康推進課

事業シートNo.10、及び補足資料「近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形勢事業」に基づき説明。

○委員

- 健康未来食品の開発について、魅力的な内容であるが、方向性など素案は存

在しているのか。

○健康推進課

- 委託先として、食品衛生協会と調理師会へ働きかけをお願いしている。
- そもそも、健康未来食品とは何かということについて、議論をしている。
- 「発酵食品」を近江八幡市の健康未来食品として定義付けようという提案があり、推進するための推進協議会において、試食した上、合意形成を取る予定である。

○座長

- 本事業は、健康に着眼した安寧のまちづくりにも結び付いている事業である。施設整備と共にそれ以外の施策を充実させていってほしい。

○委員

- 市民に開かれた施設であるので、K P Iについても「市民の相談件数」など、市民に来てもらうことを目的としたものにすると良い。

(11) 歴史的建造（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業

○文化観光課

事業シートNo. 1 1に基づき説明。

○委員

- 物品売上や入館料収入をK P Iとしているが、本来の目的は歴史的建造物の活用により地域の方々の愛着を高めることや、来館者に近江八幡市のことをよく知ってもらうことであると思う。それが結果的に売上等に反映されるのだと思うが、あくまで物品販売は手段であって目的ではないはずだと思うので、しっかりと整理して欲しい。

○委員

- 資料館はまちで一番大事な場所の一つである。そこに近江八幡市の歴史があり、どんなまちなのかを知ることができる場所である。
- もっと「ひと」にお金を掛けることはできないのか。しっかりと一流の人材を配置しないことには、いくらいい建物を造ったところで意味がない。

○委員

- 本事業は地方創生拠点整備交付金を利用し、今年度は「0次予防拠点」と同じくまずはハード面の整備を行うもの。継続して色々と考えていかなければ

ならない、「ひと」は大切だと思っている。

- これまでは中々手をつけられなかった、ハード整備事業をようやく進められるようになった。近江八幡市は市民性が高いので、成熟するにつれて状況は良くなっていくだろう。

(12) 婚活事業

○政策推進課

事業シートNo.12-①、12-②、12-③、及び補足資料「チラシ（街コン in 近江八幡）、「チラシ（近江八幡市 職場の縁結びサポーター育成のための応援企業募集）」、「チラシ（近江愛パーティー in ニューオウミ）」に基づき説明。

○委員

- 行政が行って本当に効果があるのだろうか。例えば大学のゼミ生に、企画をお願いした方がおもしろいものができるのではないか。
- 行政が定期的に行うのも良いが、それ以上はどのようなのだろうか。進行も行政がするのか。

○政策推進課

- 進行については、プロの方にお任せする予定である。

○委員

- KPI の目標値をカップル成立数4組としている。近江八幡市で年間何組結婚しているか分からないが、その程度であれば行わない方がいいのではないか。
- この様に人手を裂いて、チラシを作ったりするよりも、他にできることはないのだろうか。

○政策推進課

- 行政が婚活事業を行うことについては、頭打ちの感は否めないところである。今年度、見直しを行い、民間に任せることも含めて検討したい。

○委員

- 最近の傾向として、婚活イベントで相手を探す人は多いのか。

○政策推進課

- 行政が行うことによる安心感があるとのことのご意見も頂いており、出会いの場を少しでも多く作ることをコンセプトに進めている。

○委員

- 出会いの場の設定方法を再考されたい。「婚活」という名の単なる出会いの場ではなく、先ほどの農業者づくり塾など、地域のことを考える場で、人間関係を深めていく方が良いのではないか。その中で、独身者グループの集まりを設けるなどする方が関係づくりに繋がると思う。

○委員

- 「婚活」に行くことを恥ずかしがる方がいると思うので、名前を変えた方がよい。

○座長

- 出会いそのものを目的にするのではなく、何か別の目的の集まりがあって、そこを出会いの場にすべきだというご意見である。

○委員

- 地域を見て回ったり、観光政策を考えたりする場を設けて、男女で意見を交換する方が、親睦も深まるのではないだろうか。

○委員

- 「婚活」ではなく、共通の関心事をテーマにイベントを行うことには賛成である。

○政策推進課

- 既に今年度については進めている部分もあるので、頂いた意見を参考に現行計画にて推進とさせていただきたい。

○座長

- それでは、次年度以降については見直しを含めて検討するというところでよろしいか。

○委員一同

- 異論無し。

3. 意見交換

○委員

- 雇用を如何に創出していくかが、地方創生においては最も重要だと思っている。行政だけで全てやるのではなく、商工会議所などパートナーと連携して進めていくことで、実り多いものとなると思うので、その視点に留意して、各事業に取り組まれない。

○委員

- アグリ関係で尖った考えを持った若手事業者が非常に多いことが、近江八幡市の一つの特徴である。そこに、もっと色々なアプローチをしていくべきである。

○委員

- 様々な事業がそれぞれ連動しているので、それを意識して進めてもらいたい。
- 近江八幡市はとても住みやすいまちである。次の世代へ繋いでいくためにも、婚活事業しかり、人の繋がりを大事にして、地域が良くなっていけばいいと思う。

○委員

- 本日のように議論し、物の見方を変え、発信していく勇気を持たないと、せっかく会議をしても意味が無い。自分達なりの解釈をした上で、自信を持って変えていくことが大事なのではないかと思う。できないこともあるだろうが、トライはしていかなければならない。

○座長

- 12の事業のうち8事業が昨年度以前からの継続事業であった。今年3月の懇話会での委員の意見を参考に事業を進められたものと思う。全ての事業が重要であるいが、その中でもCCRC事業が一番大きな柱になり、他の様々な分野と関わってくるものと思う。
- 私からお願いしたいのは、1つは庁内の横連携の中で、成果を上げてもらいたいということ、もう1つは事業者も含めた市民をうまく巻き込むことで効果を出してもらいたいということである。
- 本日説明のあった事業の中では、観光分野のボリュームが大きいいが、量だけではなく、データマイニングを行うなど、質も追求されたい。
- ハード整備と共にソフト整備も非常に重要である。内面の充実（ソフト面）についても、ハードができてからではなく、今から考えていってもらいたい。
- 今年度の事業がより充実したものとなるよう、よろしく願いたい。

4. 閉会

(スケジュール確認)

○事務局

長時間に亘り、ご検討ご助言を賜りありがとうございました。

本日の議事内容につきましては、議事録として取りまとめ、後日ご報告させていただきます。

また、各事業担当課におきましては、本日賜りましたご助言を踏まえ、事業を推進してまいりますので、お気づきのことがございましたら、事業途中であってもご意見を頂戴できればとぞんじますので、よろしくお願いいたします。

次回の懇話会につきましては、事業の成果を検証いただく為、来年3月下旬の開催を予定しております。時期が近づきましたら、ご案内申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

以上で、平成29年度第1回近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上